



100曲の伝統音楽の録音&撮影をした。
古典音楽、ナツ神の音楽・・・。

ミャンマーの正月(4月)、
水掛け祭りの最中、
黄色いパダウの花が咲き
雨期が始まる頃・・・。



200年前のラブソング

古い友人から電話が入った。
「ひとり、ミャンマー人をやとってもらえない?」
それが、きっかけ。すべての始まりだった。

もともと、民族音楽が好きだった。
小泉文夫みたいな事ができたらいいなとも思ったこともあった。

トランク7ヶ分の録音機材を持ち込み
ヤンゴンの郊外的小屋で録音することになった。
現地で伝統音楽をやっている音楽家11グループが集まり毎日録音を繰り返した。
40日かけて100曲。
時期はミャンマーの正月、水掛け祭りの頃。
慈むように、風景を、人々を、撮った。

ミャンマーはタイ、カンボジア、ラオス、中国、インドの五カ国に囲まれている。
主要な民族は8部族、細かくは135部族という多民族国家だ。
今回の録音はビルマ族中心となり、18世紀の頃からの伝統音楽となった。

サインワインという楽器。太鼓が21個、木の風呂桶みたいなのにぶさがっている。
この地方ならではの、独特な楽器である。
それが中心となりサインワインオーケストラが構成される。
この楽器が指揮者となる。
音階も特殊だ。
歌を中心に演奏されるが、伴奏といった概念はない。
みな歌にフレーズを重ねるスタイルで、いわゆる和音は存在しない。
西洋のコードの耳で聴くと、なんとなく違和感を感じることもある。
でも、妙な調和がある。
フレーズもその曲だけのものではなく、他の曲中にも使用されたりすることがある。
同じ定型的フレーズが、いくつもの曲に存在することがある。
そして、譜面はない。
だから、皆、耳で覚えていくしかない。
人から人へ、伝えられていく。
多少の変化をとげながら。

いま、ミャンマーはアウンサンスーチーが解放され、
軍事政権下から民主化へと進み、外国企業が次々と入り込んでいる。
あちこちに、変化の動きが感じられる。
音楽家たちのマインドも変化し、きっと伝統音楽の在り方も変わっていくだろう。

時代とともに変化をしながら、伝えられていくのが伝統音楽かもしれない。
だからこそ、いまのこの時期にミャンマーの伝統音楽を録音してみたかった。
遠い昔を旅しているような錯覚のなかで。

川端 潤 監督



嗚呼、コトバに詰まります
こんなに心震える音景色が、我々と同じアジアに、
ミャンマーに潜んでいたなんて、、、
”潜んでいた”とはコチラからの穿った見方だね、
この国は名前や政治情勢を(悲しくも)変えながら、
大河のように堂々と歩んでいたんだものね。

はじめて体験する”かの国の伝統音楽”とは思えぬ程の郷愁感、
僕の好奇のキモチを軽々とつつみ込んでしまう自由自在な旋律、
そしてそして!繊細に完璧にチューンされた
「サインワイン」の驚愕の演奏には、
しあわせにもヒザマづくしかありません。

僕はこの作品からキュウシュウしたりベンキョウするのを
フッとやめてしまいました。
南風のようにそよいでいて欲しいのです。
『BEAUTY OF TRADITION』プロジェクトの
タフ&スマートなフィールドワークにも感謝しながら。

ASA-CHANG ミュージシャン

聴いたことのないメロディ、聴いたことのないリズム。
アジア音楽最後の秘境、ミャンマーから届いた
魔法のような伝統音楽アンサンブル。
僕の知らないアジアがここにありました。

大石 始 ライター

2011年に民政移管して以降、急激に変化する
ミャンマーの町並みやライフスタイル。
一方で脈々と受け継がれる伝統音楽を生き生きと演奏する
若い世代の音楽家たちが、
ミャンマーの知られぬ一面を力強く伝えるドキュメンタリー。

井上さゆり 大阪大学大学院 言語文化研究科



6月下旬より夏の夜、ポレポレ東中野にて公開!
期間中、ミャンマーの食べ物や飲み物を劇場で販売予定!
チケットには本映画内で制作された特別CDがもれなくつきます!



ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088
www.mmjp.or.jp/pole2/
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分

